

(様式1)

令和5年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

					学校整理番号	17
					学 校 名	黒石高等学校
					全日制の課程	校舎
(1) 学校教育目標					1 何事にも誠実に取り組み、強い意志を持って主体的に学習する態度を身に付けさせる。 2 郷土に誇りを持ち、他者を敬愛する豊かな人間性を養う。 3 心身ともに健康で、社会の発展に貢献できるたくましさを育てる。	
(2) 現状と課題					ギガスクール構想の1人1台端末を授業や総合的な探究の時間に有効に活用し、効果を上げていくことが今年度第一の課題である。また、重点目標の1つに「あいさつの励行」を挙げて取り組 みを続けており、一定の成果は認められるが、保護者の方にも認めてもらえるにはまだ不十分であるため、さらなるあいさつの活性化が課題と考えられる。生徒の進路指導については添削や解 説会など、生徒に個別に対応することを基本として進めており、現3学年の結果を踏まえ、さらに改良を加えてチームによる指導体制を確立することも課題である。	
(3) 重点目標					1 探究型(協調型)学習の効果的活用	
					2 あいさつの活性化	
					3 黒高型進路指導の確立	
					4 ICTの効果的活用	
(4) 結果の公表					本校ホームページ上にて公表する。	
(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成						
学校運営協議会委員 8 名						
自 己 評 価					学校関係者評価	
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	探究型(協調型)学習の効果的活用	①講義形式の一斉授業と探究学習をバランスよく実施し、生徒に「わかる・できる・喜び」を与える授業サイクルをつくる。 ② 総合的な探究の時間において学年別に育成すべき資質能力を、1学年では「傾聴力」、2学年では「対話力」、3学年では「発信力」と明確化し育成していく。	①各教室で1人1台の端末を効果的に活用し、探究した学習内容を学年全体またはクラス内で発信し、「発信力」を高める機会を得た。 ① コロナ禍が明け、グループ学習をする機会を積極的に設けることができた。 ② 近隣の中学校との交流において、探究活動・課題研究の成果発表会を行い、地域への発信力を高めることができた。 ② 総合的な探究の時間において、生徒の活動が調べ学習にとどまり、探究活動までいたらない生徒も見受けられ、探究の深まりに関して生徒間の差が大きい。 ② 外部講師及び専門家を招いて講演や質疑応答、助言を行ったが、「傾聴力」「対話力」を踏まえて、テーマ毎にグループ協議をする時間を設定するべきであった。	B	・市内の2つの中学校で実施した総合的な探究の時間・課題研究の成果発表会の内容が素晴らしかった。継続して実施して欲しい。	・各自のタブレットでの調べ学習がメインとなってしまったので、次年度は類似したテーマの生徒同士で協議する機会があればよい。フィールドワークを積極的に行うと更に良い。 ・育成すべき資質能力を踏まえた郊外でのフィールドワークを実施する。 ・ロイロノートを活用し、授業内で生徒の意思共有を活発に行いたい。
2	あいさつの活性化	① 職員からあいさつをし、あいさつの励行について生徒に範を示す。 ②授業、HR、部活動、委員会など生徒との関わりの中で挨拶を指導する。	年間を通じて生徒指導部が登校指導を行っており、その主たる目的は挨拶指導と生徒への声かけである。 その成果として、ほとんどの生徒が明るく元気な挨拶をするようになった。 また、日常においての会釈や「こんにちは」などの礼法も身についている。	B	・先生方の挨拶の状況を生徒に尋ね、その生徒が挨拶に努めたか、という先生方の姿勢が生徒にどう反映されたかをつかめるアンケートになっていて、先生方のやる気度が伝わってくる。	教師生徒間、生徒間の挨拶がさらに自主的なものへとなっていくよう指導を徹底したい。
3	黒高型進学指導の確立	① 国公立大学志望者には、基礎力の定着と応用力の育成のため、計画的かつ継続的に個別添削や解説会を実施する。 ② 生徒の進路達成のため、一人一人に複数の教職員で対応し、きめ細かい指導を行う。	①多様な進路に対応するため、指導内容や方針については早めに提示し、「分掌主導・学年実働」の流れを進路指導部で作っている。年度当初に個別添削指導に関する計画を進路指導部から学年に提示し、運用は各学年で行うようにしている。学習だけではなく、大学で学ぶ意義や地域社会への関わりについても丁寧に指導している。 ①運用を各学年で行っているため、課題の分量などに多少差がでている。 ②総合型選抜、学校推薦型選抜、就職試験の受験生には、全教職員を担当として個々に割り当て、面接指導、小論文指導などを実施している。 ②担当の教職員によって、若干指導内容に差が出ている。	B	・全般的に進学者が増えたようである。情報デザイン科で学んだことを生かして学ぶことができる大学選択者が増えて素晴らしいと思う。	・国公立大学への進学希望者を対象にした個人添削指導を始めて4年目となるので、これまでの進路状況や各学年の個別添削の実施状況を踏まえて、今後の進度目標達成に向けた支援体制を固めたい。 ・3年間見通しての小論文、面接指導体制を作る。 ・生徒の進路について追跡調査も意識する。
4	I C T の効果的活用	①ICT機器を積極的に活用し、授業実践に努める。 ②生徒に対して一人一台の端末を、有効活用するように努めている。	① 校内研修を行い、教員側のスキルを高めることができた。 ① ICT機器等活用委員会に所属する若手の教員が全員ICT機器を利用した研究授業を行い、各教科の授業の質の向上に努めた。 ② ゲーグルの機能を用いたアンケートを積極的に実施し、効果的に結果をまとめて報告し、その後の活動に生かすことができた。 ② 生徒が使う端末に問題が発生するなど、使用前の準備に時間が取られ、担当者の負担が大きかった。	B	・小中学生は、タブレットやメールを使ってアンケートを行っており、回収率も非常に高い。今後入学する生徒は、そのような生徒が多く、高校生活での指導に生かして欲しい。	・公開授業の機関や方法を工夫し、研究授業の機会を増やす。 ・ICTの積極的な活用を促すとともに、ロイロノートの研修を実施するなどして、具体的な授業改善の情報提供に努める。
(11) 総括	年度始めに学校経営方針を教職員間で共有した上で、年度末に学校運営評価会議で話し合われた改善点を取り入れた分掌経営計画を作成して業務にあたらせたい。また学期ごとに各行事等を反省しながら、常にPDCAを回して改善に努め、学校の教育目標を達成したい。					